

I 調査結果の概要

1 漁業・養殖業生産量

令和元年の我が国の漁業・養殖業の生産量は420万3,664 tで、前年に比べ22万3,729 t (5.1%) 減少した。

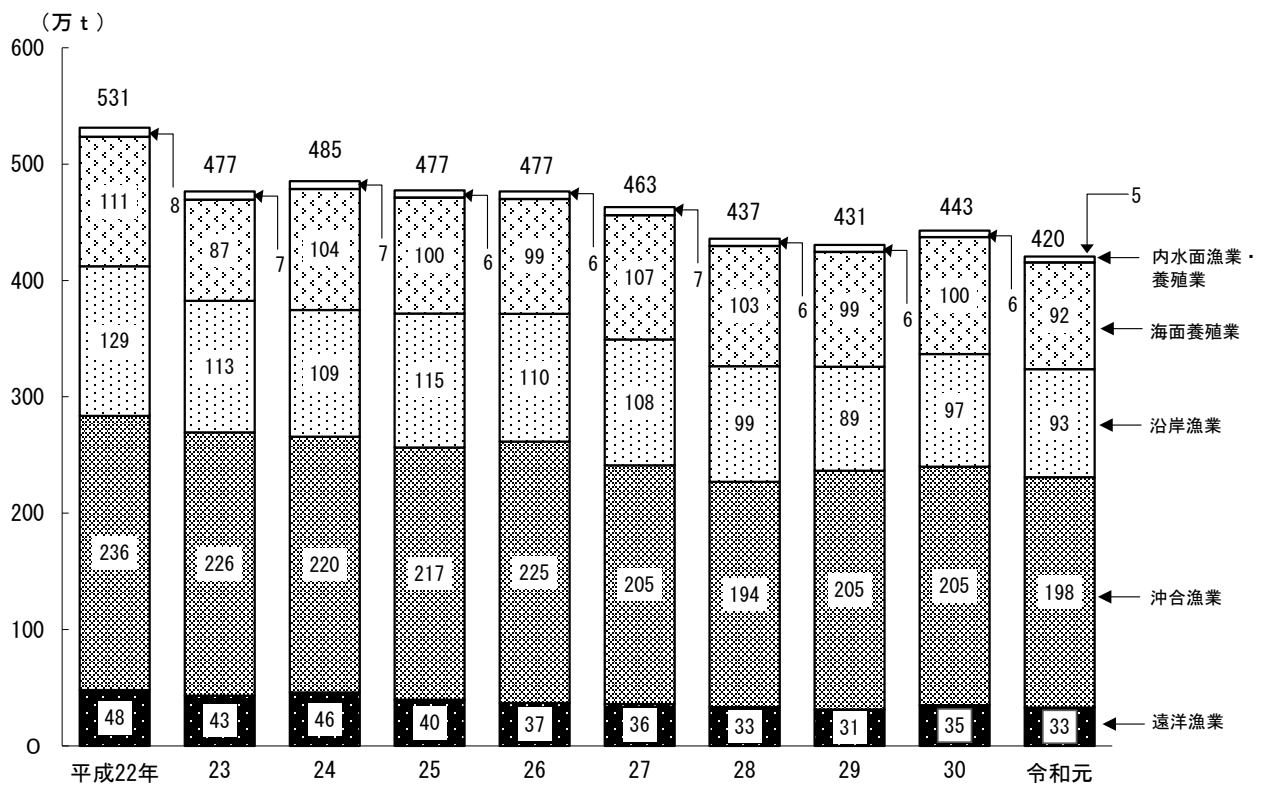
このうち、海面漁業の漁獲量は323万5,453 tで、前年に比べ13万263 t (3.9%) 減少した。

これを部門別にみると、遠洋漁業は32万8,834 tで、前年に比べ2万554 t (5.9%) 減少、沖合漁業は197万6,882 tで、前年に比べ7万829 t (3.5%) 減少、沿岸漁業は92万9,737 tで、前年に比べ3万8,881 t (4.0%) 減少した。

また、海面養殖業の収穫量は91万5,228 tで、前年に比べ8万9,643 t (8.9%) 減少した。

内水面漁業・養殖業の生産量は5万2,983 tで、前年に比べ3,823 t (6.7%) 減少した。

図1 漁業・養殖業生産量の推移



注：表示単位で四捨五入しているため、合計値と内訳が一致しない場合がある（以下同じ。）。

2 海面漁業

海面漁業の漁獲量は323万5,453 tで、前年に比べ13万263 t（3.9%）減少した。

東日本大震災で漁船や漁港施設に甚大な被害を受けた岩手県の漁獲量は9万2,774 tであり、前年に比べて2,687 t（3.0%）増加、宮城県の漁獲量は19万5,460 tであり、前年に比べて7,842 t（4.2%）増加した。

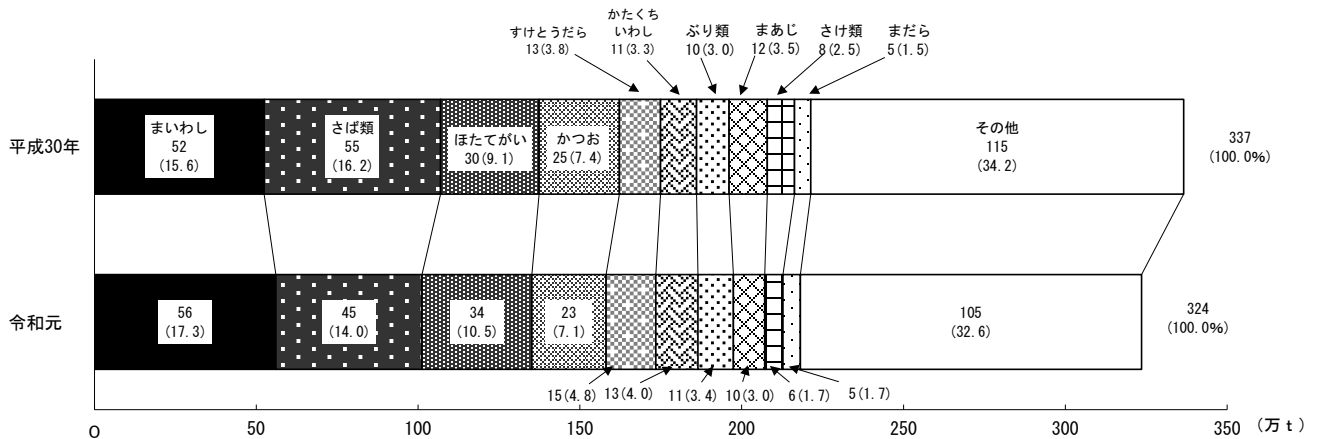
また、福島県の漁獲量は6万9,412 tであり、前年に比べて1万9,379 t（38.7%）増加した。

主要魚種別漁獲量

海面漁業の魚種のうち、漁獲量が前年に比べて増加した主な魚種は、ほたてがい、まいわし、すけとうだら、かたくちいわし、ぶり類、まだらであり、減少した主な魚種は、さば類、さんま、さけ類、まあじ、かつおであった。

この結果、海面漁業の漁獲量に占める主要魚種の割合は、まいわしが17.3%、さば類が14.0%、ほたてがいが10.5%、かつおが7.1%、すけとうだらが4.8%、かたくちいわしが4.0%、ぶり類が3.4%、まあじが3.0%、さけ類が1.7%、まだらが1.7%となった。

図2 海面漁業主要魚種別漁獲量



(1) まいわし

漁獲量は56万832 tで、前年に比べ3万6,620 t（7.0%）増加した。

これは、茨城県、福島県等で増加したためである。

(2) さば類

漁獲量は45万1,567 tで、前年に比べ9万3,668 t（17.2%）減少した。

これは、茨城県、長崎県等で減少したためである。

(3) ほたてがい

漁獲量は33万9,435 tで、前年に比べ3万4,668 t（11.4%）増加した。

これは、漁獲量のほとんどを占める北海道で増加したためである。

- (4) かつお
漁獲量は22万8,949 tで、前年に比べ1万8,767 t (7.6%) 減少した。
これは、静岡県、高知県等で減少したためである。
- (5) すけとうだら
漁獲量は15万4,002 tで、前年に比べて2万6,505 t (20.8%) 増加した。
これは、北海道等で増加したためである。
- (6) かたくちいわし
漁獲量は13万137 tで、前年に比べ1万8,763 t (16.8%) 増加した。
これは、長崎県、三重県等で増加したためである。
- (7) ぶり類
漁獲量は10万9,286 tで、前年に比べ8,865 t (8.8%) 増加した。
これは、岩手県、北海道等で増加したためである。
- (8) まあじ
漁獲量は9万7,142 tで、前年に比べ2万640 t (17.5%) 減少した。
これは、島根県、長崎県等で減少したためである。
- (9) さけ類
漁獲量は5万6,438 tで、前年に比べ2万7,514 t (32.8%) 減少した。
これは、北海道、岩手県等で減少したためである。
- (10) まだら
漁獲量は5万3,477 tで、前年に比べて2,813 t (5.6%) 増加した。
これは、北海道等で増加したためである。

図3 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移
(上位1位～5位)

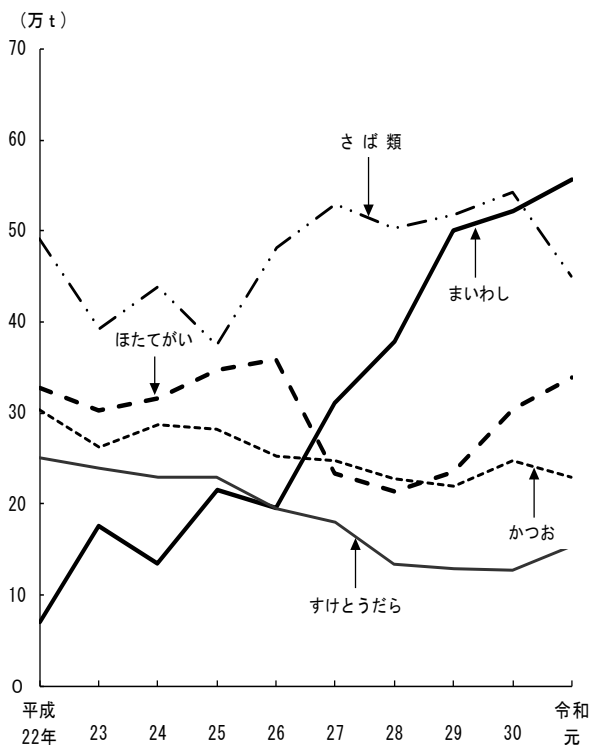
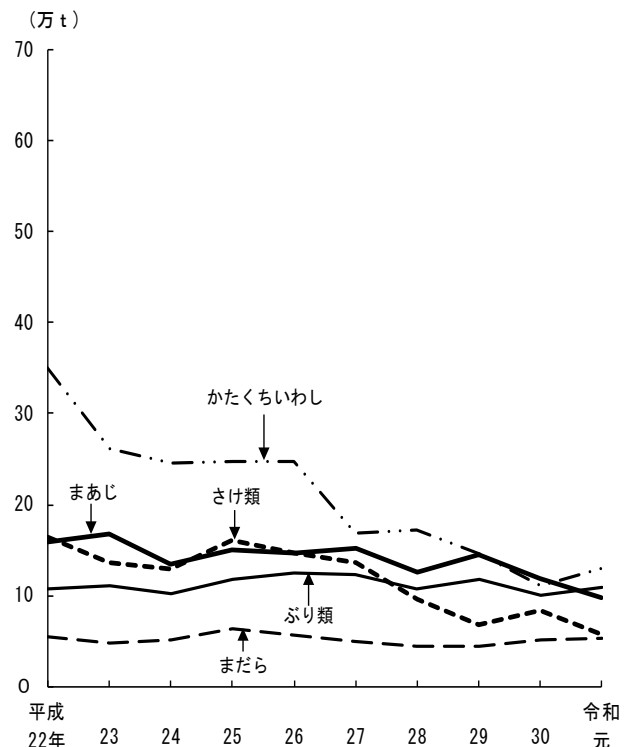


図4 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移
(上位6位～10位)



3 海面養殖業

海面養殖業の収穫量は91万5,228 tで、前年に比べ8万9,643 t (8.9%) 減少した。

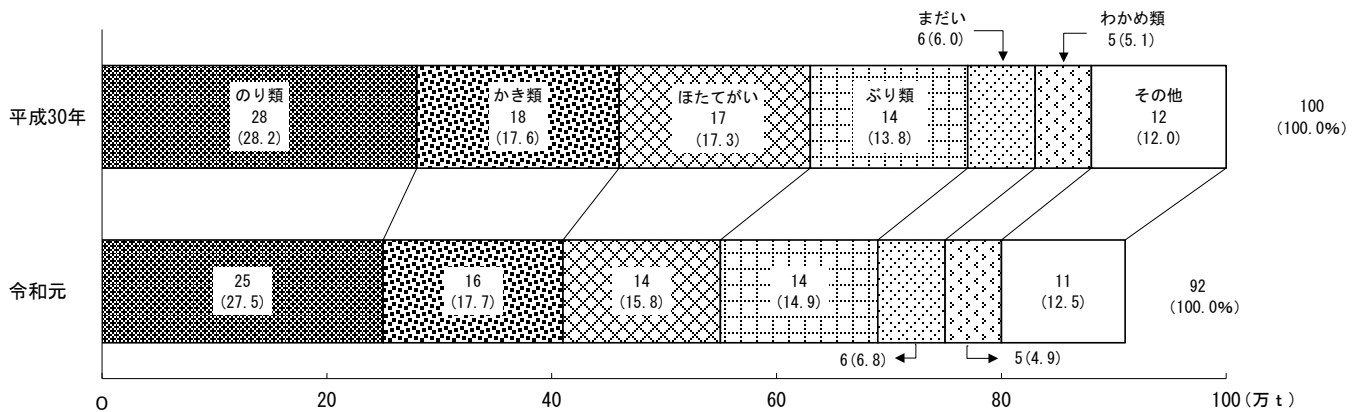
これは、のり類、ほたてがいが減少したためである。

東日本大震災の影響で養殖施設に甚大な被害を受けた岩手県の収穫量は2万9,570 t、宮城県の収穫量は7万5,268 tであり、岩手県は前年に比べて6,932 t (19.0%) 減少し、宮城県は前年に比べて5,905 t (7.3%) 減少した。

海面養殖業の魚種のうち、収穫量が前年に比べて増加した主な魚種は、くろまぐろ、まだい、ほや類であり、減少した主な魚種は、のり類、ほたてがい、かき類等であった。

この結果、海面養殖業の収穫量に占める主要魚種の割合は、のり類が27.5%、かき類が17.7%、ほたてがいが15.8%、ぶり類が14.9%、まだいが6.8%、わかめ類が4.9%となった。

図5 海面養殖業主要魚種別収穫量



(1) 魚類

収穫量は24万8,137 tで、前年に比べ1,354 t (0.5%) 減少した。

ア ぶり類

収穫量は13万6,367 tで、前年に比べ1,862 t (1.3%) 減少した。

これは、鹿児島県等で減少したためである。

イ まだい

収穫量は6万2,301 tで、前年に比べ1,565 t (2.6%) 増加した。

これは、愛媛県等で増加したためである。

ウ ぎんざけ

収穫量は1万5,938 tで、前年に比べ2,115 t (11.7%) 減少した。

これは、宮城県等で減少したためである。

(2) 貝類

収穫量は30万6,561 tで、前年に比べ4万4,543 t (12.7%) 減少した。

ア かき類

収穫量は16万1,646 tで、前年に比べ1万5,052 t (8.5%) 減少した。

これは広島県、宮城県等で減少したためである。

イ ほたてがい

収穫量は14万4,466 tで、前年に比べ2万9,493 t（17.0%）減少した。
これは、北海道で減少したためである。

図6 海面養殖業魚種別収穫量の推移（魚類）

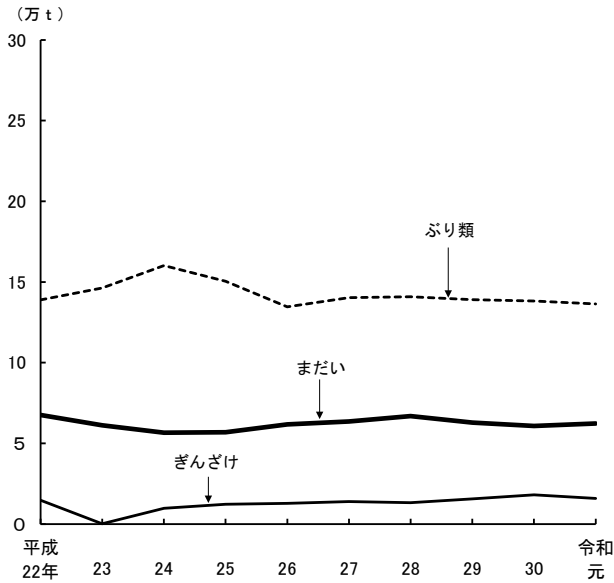
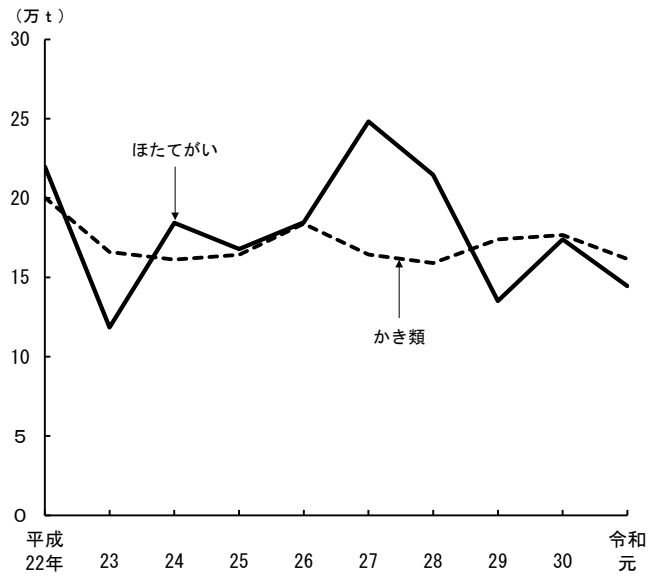


図7 海面養殖業魚種別収穫量の推移（貝類）



(3) 海藻類

収穫量は34万6,389 tで、前年に比べ4万4,258 t（11.3%）減少した。

ア のり類（生重量）

収穫量は25万1,362 tで、前年に比べ3万2,326 t（11.4%）減少した。
これは、兵庫県、香川県等で減少したためである。

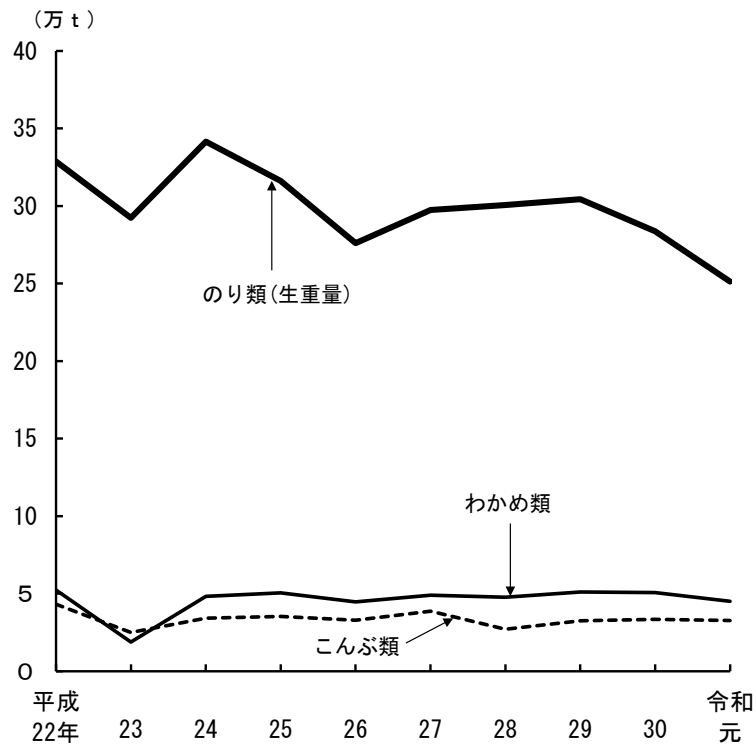
イ わかめ類

収穫量は4万5,099 tで、前年に比べ5,676 t（11.2%）減少した。
これは、岩手県等で減少したためである。

ウ こんぶ類

収穫量は3万2,812 tで、前年に比べ720 t（2.1%）減少した。
これは、北海道、岩手県等で減少したためである。

図8 海面養殖業魚種別収穫量の推移（海藻類）



4 内水面漁業

内水面漁業（全国の主要113河川及び24湖沼）の漁獲量は2万1,767 tで、前年に比べ5,190 t（19.3%）減少した。

(1) 河川・湖沼別漁獲量

河川における漁獲量は9,938 tで、前年に比べ1,050 t（9.6%）減少した。

また、湖沼における漁獲量は1万1,829 tで、前年に比べ4,140 t（25.9%）減少した。

(2) 主要魚種別漁獲量

ア しじみ

漁獲量は9,520 tで、前年に比べ126 t（1.3%）減少した。

イ さけ類

漁獲量は6,240 tで、前年に比べ456 t（6.8%）減少した。

これは、岩手県、青森県等で減少したためである。

ウ あゆ

漁獲量は2,053 tで、前年に比べ87 t（4.1%）減少した。

エ わかさぎ

漁獲量は981 tで、前年に比べ165 t（14.4%）減少した。

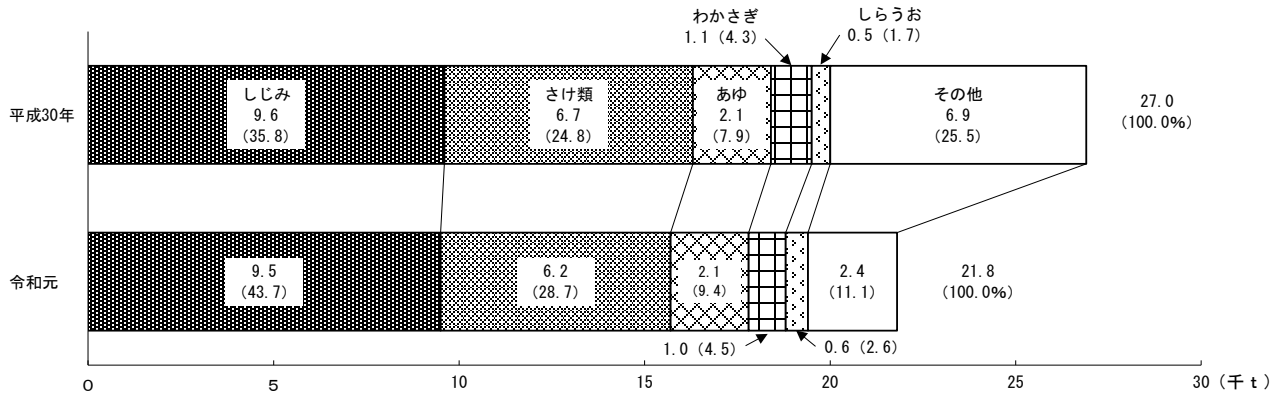
これは、秋田県等で減少したためである。

オ しらうお

漁獲量は565 tで、前年に比べ103 t（22.3%）増加した。

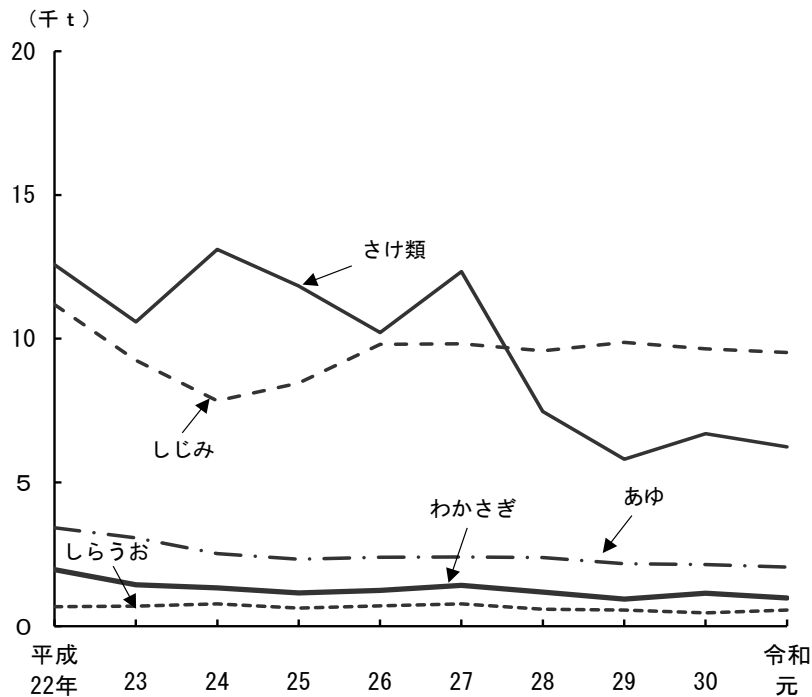
これは、島根県等で増加したためである。

図9 内水面漁業主要魚種別漁獲量



注：その他が大きく減少しているのは、前年まで調査対象であった一部の湖沼が、平成30年9月1日より漁業法第84条第1項に定める海面に指定され、調査対象外となったことによるもの。

図10 内水面漁業主要魚種別漁獲量の推移



5 内水面養殖業

内水面養殖業の収穫量は3万1,216 tで、前年に比べ1,367 t (4.6%) 増加した。

(1) うなぎ

収穫量は1万7,071 tで、前年に比べ1,960 t (13.0%) 増加した。

これは、愛知県、鹿児島県等で増加したためである。

(2) にじます

収穫量は4,651 tで、前年に比べ81 t (1.7%) 減少した。

(3) あゆ

収穫量は4,089 tで、前年に比べ221 t (5.1%) 減少した。
これは、和歌山県、徳島県等で減少したためである。

(4) こい

収穫量は2,741 tで、前年に比べ191 t (6.5%) 減少した。
これは、茨城県、群馬県等で減少したためである。

図11 内水面養殖業主要魚種別収穫量

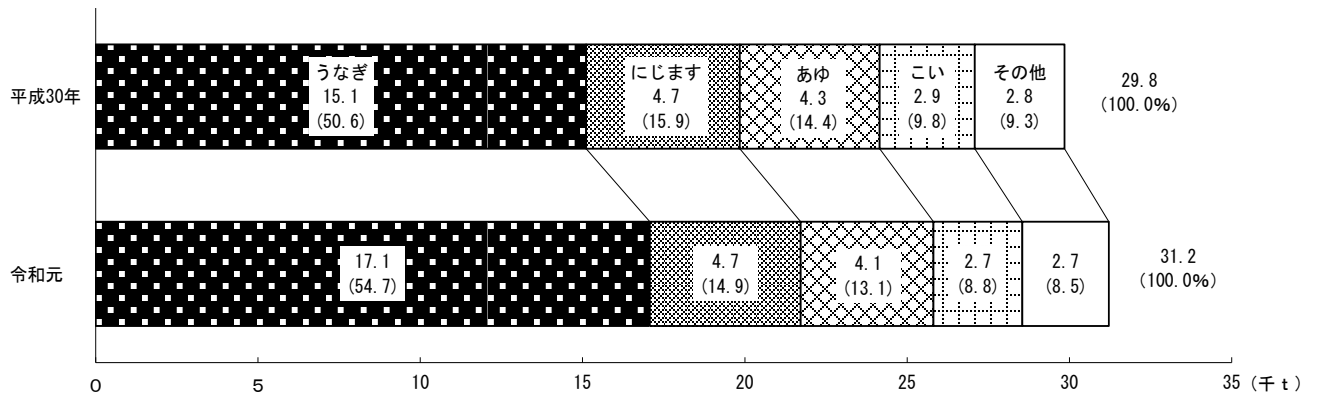
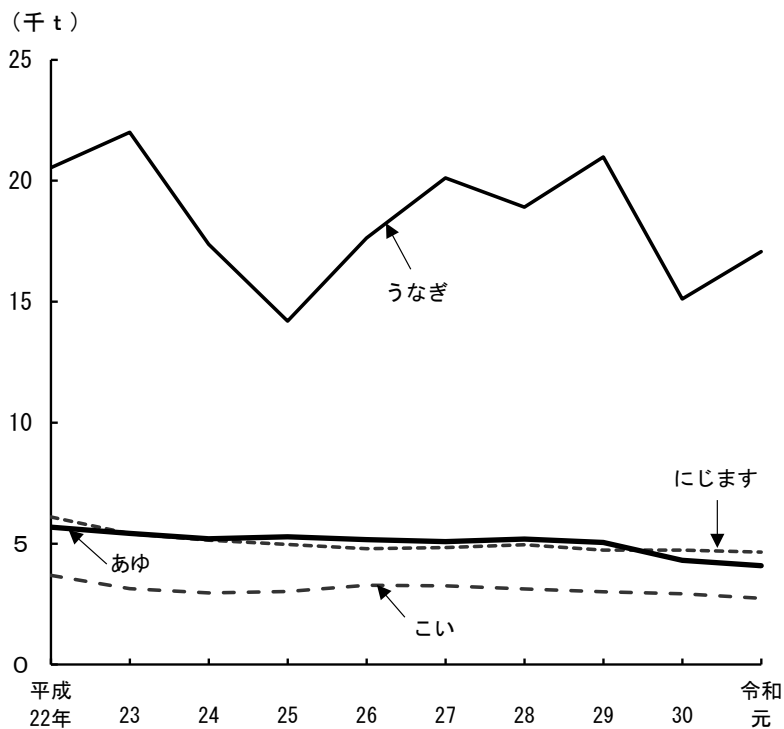


図12 内水面養殖業主要魚種別収穫量の推移



なお、令和元年調査から調査対象項目に追加された観賞魚販売量について、にしきごいの販売量は276万4,141尾であった。